

(第3種郵便物認可)

毎日新聞

## 黄山美術社 陳建中社長



●黄山美術社 本社・東京都江戸川区南葛西3  
の24の7▽02年10月設立▽資本金1000万円▽  
従業員7人▽売上高3億円(07年3月期見込み)

中国への旅行者が増えている。悠久の大地、4000年の歴史に引かれる人が多いだろう。その中国の美術、工芸品を売買して急成長しているのが黄山美術社の陳建中社長だ。美術展などでの物販で実績をあげ、いまでは古美術品の中国帰還事業にも着手。「この仕事で祖国に貢献したい」という。

## 中国美術品を販売

現在の主な事業内容は？

陳社長 中国関係の展覧会での記念美術品販売と、中国文化の美術展などの企画・運営が現在の二本柱だ。記念品販売は、昨年一年間で全国30カ所以上営業できた。いま人気が高い商

# 祖国「帰還」にも着手

品は木彫りの仏像や茶道具など陶工芸品。仏像は1体1万円台が中心だが、白檀作りで50万円クラスのものも売れています。

このほか、扱い商品は掛け軸、ヒスイなどアクセサリ、水晶玉など。数年前に開かれた中国歴史王朝展

中国の「現代の匠」が作った品質の高いものを輸入し、現場の販売員にも歴史や美術工芸の知識を教

育して、顧客満足度を高めるよう努力しています。こうして積み重ねによって、訪中していた法政大の教授の紹介で連よく城西大に留学の機会を得ました。

では兵馬俑の実物大レプリカ(80万円)も売れました。

美術館の記念品コーナーにしては高額なものが売れますね。

陳社長 来場者の中には記念のお土産というより、雄大な中国文化を求めるといえる。もちろん本物の古美術品は販売できないが、

最大手の販売会社になり、紀濤教授から「いまの年齢から始めて成功する仕事を考えろ」と美術展での物販を示唆された。私は書をたしなんでいたし、将来は好きな美術関係の仕事に飛躍できる可能性があったので、50万円の資金で起業したので。

陳社長 本業を固めるのはもちろん、美術品の祖国帰還にも貢献したい。中国人民対外友好協会に「中国和平友好発展基金」が設けられているが、06年に同基金と協力して、国外に流出した中国文物の調査・回収事業にあたる「海外文物回帰保護基金」が創設され、私

## トップ群像 アントレプレナー奮戦記

陳社長 いま中国の美術品の取引仲介に取り組んでいる。最初は日中の現代美術を双方に紹介していた。

【西村修一】